

思春期における健康教育の取り組み

～ピアカウンセリング講座を通して～

○黒木真紀子 中武節子 黒木智子（高鍋保健所）
杉尾重子（総務事務センター）

I はじめに

宮崎県では、人工妊娠中絶実施率が全国より高く、高鍋保健所管内における状況も同様である。「健やか親子21」において、思春期保健対策の強化と健康教育の推進を重要課題として位置づけ、関係機関との連携を図り取り組んでいる。しかし、思春期の性教育については、性情報が氾濫し、性行動に関連した健康上のリスク（性感染症、望まない妊娠等）にさらされている現状において、従来の教育方法では行き詰まりの感を呈している。

ピアカウンセリングは、共通の部分の多い同じ年代の人々がお互いの力を信じて一緒に話し合い、支えあうことによって問題を解決していこうというサポート手法で、新たな思春期の健康教育の方法として導入され、宮崎県では平成13年から取り組まれている。

当保健所では、平成14年度より「生と性についての正しい知識と情報を得、同じ文化の中で価値観を共感・共有しながら共に学び、若者達がそれを自分たちの生き方に活かして自己決定ができ、行動できる力を養うこと」を目的に、ピアカウンセラーとして養成された大学生が、高校生に対してピアカウンセリングの手法を用いた講座を実施してきた。保健所は、地域の大学・高校・行政機関が連携を取り若者を支援するためのコーディネートの役割を担ってきたが、常により効率のよい実施方法を模索してきた。平成18年度は『ピアエデュケーション（仲間教育）』を取り入れ、『ピアカウンセリング講座』に関連する思春期の健康教育の新たな方向性を検討したので報告する。

II 概要

1 平成14年度から平成17年度まで

(1) 管内の高等学校（5校）での取り組み

H14.12.12	講座準備に伴う研修会
H15.1.21	打合せ
H15.3.21	ピアカウンセリング講座
H15.8.11	ピアカウンセリング講座（フォロー）
H15.9.23	ピアカウンセリング講座
H15.12.21	ピアカウンセリング講座（フォロー）
H16.3.22	事業報告会
H16.11.23	ピアカウンセリング講座（1日）
H17.12.23	ピアカウンセリング講座（2日）
H17.12.24	

平成14年度にピアカウンセリングを関係者で共通理解し、連携しやすくするため、事前に研修会や打合会を開催。平成15年度までは講座とフォロー講座を実施し、事業報告会を開催した。平成16年度以降は講座のみを実施した。講座は日程調整の都合で1日または2日での開催になった。保健所は企画及び大学・高校との連絡調整等のコーディネートの役割を担い、大学で養成されたピアカウンセラーが当日の講座を運営している。

プログラムは、「自己を見つめる」「コミュニケーションスキル」「性について考える」「問題解決にむけて」の四つのプログラムで構成されている。

(2) ピアカウンセリング講座の受講状況

年度		14年度	15年度	16年度	17年度
県	受講者数	134	124	94	31
	参加高校数	28	19（大学1）	12	7
管内	受講者数	15	20	14	9
	参加高校数	5	4	2	2

参加者募集は高校の協力を得た。性教育、人間教育の必要性はあっても、学業・部活動が優先され、講座の日程を確保できない中で、参加高校数、受講者数は年々減少していった。

2 平成18年度

管内の高等学校（1校）での取り組み

H18. 7. 14	ピアエデュケーションと保健師による健康教育
H18. 9. 25	ピアカウンセリング講座(1日)
H18. 11. 24	高校生の校内活動支援（レッドリボン展示等）
H19. 3. 15	推進会議

高校から夏休み前に性教育を依頼された際にまずピアカウンセリングの実施を念頭におき、同年代の仲間同士と一緒に性のことを考える技法であるピアエデュケーションを取り入れることを申し入れ、了解を得た。高校側は専門的立場

からの正しい知識の教育を求めていたため、内容を分担してピアエデュケーションと保健師による健康教育と組み合わせて、全校生徒及び教職員約400名に実施した。終了後のアンケートから高校生には年齢の近い大学生の話は受け入れやすく、ピアカウンセリング講座への関心を高めることができた。また、教職員には性教育に対する考えの違いがあったが、高校内でピアカウンセリング講座を開催することへの了解を得ることができた。

ピアカウンセリング講座は、1・2年生を対象に平日の1日プログラムで実施し、22名が参加した。

3月には大学・高校・保健所の3機関の関係職員による会議を実施し、1年間の取り組みを評価し、次年度はより連携をとって事業を実施していくことになった。

III 考察

大人からの一方的な性教育には反応を示さない高校生にも、今を生きる同じ若者として知っておいてほしい性の情報を真摯に伝えようとする大学生の話は、高校生の心にダイレクトに伝わっていると実感できた。

ピアカウンセリングの手法は、性に関する正しい知識の習得に加えて、参加型の演習でコミュニケーションスキルや問題解決のスキル（傾聴、対話、交渉、拒否する等の技術）を習得し、自尊感情や自己肯定感を高め、自己決定・行動変容へのきっかけとなっている。仲間との関係を大切に思春期に、友人と一緒に学ぶことのできるピアエデュケーションやピアカウンセリングは正しい性の情報を共有でき、対等に相互支援できる人間関係をつくることのできる。そのため、ピアカウンセラーとなる大学生にピアカウンセリングの手法と正しい性の知識が必要である。カウンセラーの養成は重要である。

思春期の性教育では次世代を担う若者が主役であり、若者が直面している性に関する課題と向き合い、若者自身が将来のめざす姿を実現するために『ピアカウンセリング講座』は有益であることを関係者が共通認識し、互いの立場で役割を担い、地域のなかで支援の輪を広げていく必要がある。

また、ピアカウンセリングを受講することによって、高校生では解決できない性に関する重大な悩み（望まない妊娠、人工妊娠中絶、出産等）に直面したとき、ピアカウンセラーや学校などに早い時期に相談することができるため、問題が顕在化してくる。悩みに直面した時に大人に相談できたことを認め、問題解決に向けて支援できる体制が必要である。

IV まとめ

近年、学校教育においては教職員や専門職による性教育が取り入れられ、性教育を受ける機会は増えている。しかし、人工妊娠中絶、性感染症等の性に関する健康問題は改善されておらず、専門職の想いは若者達へ届いているのか不安を感じている。

思春期の性教育は、学校教育での年間計画に取り入れ、学習指導要領に定められた保健の授業が正しい知識の基礎になり、同じ思春期の時期にいる少し先輩から後輩へピアエデュケーションを実施することが望ましいと考える。そのためには、ピアカウンセリングやピアエデュケーションを普及していくことが必要であり、現段階では各機関がそれぞれの役割を担い連携しながら、地域の実情に応じて事業を推進していくことが重要である。

【文献】

厚生労働省 健やか親子21検討会：「健やか親子21」中間評価報告書 2006年
前田ひとみ、鶴田来美：思春期の健康教育推進に向けた提言 2003年